

令和 3 年 6 月 28 日現在

機関番号：31204

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K17616

研究課題名(和文)高齢者施設の看護職のワーク・エンゲイジメント因果モデルの検証

研究課題名(英文) Investigation of causal model of work engagement among nurses for elderly care facilities

研究代表者

木内 千晶 (Kinouchi, Chiaki)

岩手保健医療大学・看護学部・准教授

研究者番号：20363731

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、療養病床、介護老人保健施設、介護老人福祉施設に勤務する看護職のワーク・エンゲイジメント因果モデルを検証し、心身の健康と仕事のパフォーマンスを促進する因果プロセスを明らかにすることを目的とした。共分散構造分析にて、ワーク・エンゲイジメント因果モデルを検証した結果、個人の資源と仕事の資源を先行因子、ワーク・エンゲイジメントを媒介因子、心身の健康と仕事のパフォーマンスをアウトカムとする因果プロセスが明らかとなった。療養病床と高齢者施設での多母集団の同時においては、施設によるプロセスの違いが明らかになり、一部にワーク・エンゲイジメントの媒介効果が認められた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で検証したワーク・エンゲイジメント因果モデルにより、療養病床、介護老人保健施設、介護老人福祉施設における心身の健康と仕事のパフォーマンスを促進するプロセスが明らかになった。従って、それぞれの施設において、このプロセスを考慮した看護管理を検討することが可能となる。従来のストレスマネジメントでは職場や個人のネガティブな側面に焦点が当てられていたが、本研究で得られた成果は、職場や個人のポジティブ資源を調整することで、仕事に関するwell-beingの状態を向上するという観点から、ストレスを抑制し仕事のパフォーマンスを促進することが期待される。

研究成果の概要(英文)：This study aimed to determine the causal process of work engagement among nurses for elderly care facilities. Verification of the causal model and multi-group analysis were performed using structural equation modeling. The process model in which personal resources and job resources were the antecedent factors, work engagement was the mediating factor, and mental and physical health and work performance were the outcomes was verified. This process differentiated between elderly care facilities. The process from antecedents to outcomes had a direct effect and an indirect effect that mediated work engagement.

研究分野：高齢者看護学

キーワード：ワーク・エンゲイジメント レジリエンス 療養病床 介護老人保健施設 介護老人福祉施設 メンタルヘルス パフォーマンス ストレス

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

高齢化が深刻な日本において、高齢者看護の質向上は継続した課題である。高齢者看護の質向上には、看護職が疲弊せず、いきいきと働ける職場環境が望まれる。今や高齢者看護の場は病院から施設、施設から在宅へと拡大しているため、それぞれの施設の機能や特性に合わせた看護管理のもと職場環境を整えていく必要がある。現在、療養病床削減・廃止案により、介護療養型医療施設は介護施設などに転換する計画が進められている。それに伴い、残された療養病床は患者が重症化し、介護施設においてもより重症患者を受け入れることになる。さらに、地域包括ケアシステムの実現に向けては、どの施設もこれまで以上に在宅復帰に向けたケアサービスの質が問われることになる。従って、看護職への負担は増えストレスも増大することが予測される。

2015年には労働者に対するストレスチェック制度が施行となり、それぞれの職場での対策が求められているが、一般病棟と比較して、療養病床や介護老人保健施設、介護老人福祉施設等の高齢者施設は、看護職の配置が少なく、小規模単位の施設が多い。そのため、組織的な取り組みには限界があり、多施設の調査の結果から施設種別ごとの施策を示すことが必要だと考えた。

近年はポジティブ心理学の発展により、職場のメンタルヘルスにもポジティブな考えが導入され、組織と個人の活性化を推進するものに移行しつつある。その中でも、ワーク・エンゲイジメントは仕事に関する well-being の状態を表す概念で、先行因子は仕事の資源と個人の資源であることが明らかになっている(島津, 2010)。さらに、ワーク・エンゲイジメントが高まることで心身の健康や仕事のパフォーマンスが向上するとされる。そこで、療養病床、介護老人保健施設、介護老人福祉施設に勤務する看護職のワーク・エンゲイジメントを媒介因子とする因果モデルを検証し、心身の健康と仕事のパフォーマンスを促進する因果プロセスを明らかにすることで、ストレスを抑制し心身の健康とパフォーマンスを促進する施策を検討することとした。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、療養病床、介護老人保健施設、介護老人福祉施設に勤務する看護職のワーク・エンゲイジメント因果モデルを検証し、心身の健康と仕事のパフォーマンスを促進する因果プロセスを明らかにすることである。

## 3. 研究の方法

### 1) 研究対象

研究に承諾が得られた療養病床 22 施設、介護老人保健施設 20 施設、介護老人福祉施設 48 施設に勤務する看護職 1,006 人である。

### 2) 調査方法

ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度日本語短縮版、新職業性ストレス簡易調査短縮版、二次元レジリエンス要因尺度を調査項目として無記名自記式質問紙調査を実施した。

### 3) 分析方法

共分散構造分析にて因果モデルを検証し、多母集団の同時分析にて療養病床、介護老人保健施設、介護老人福祉施設のモデルの比較を行った。分析には、統計ソフト IBM SPSS Statistics 24.0 および Amos Statistics 24.0 を使用した。

### 4) 倫理的配慮

岩手保健医療大学研究倫理審査委員会の承認を得た(岩 18-4)。

## 4. 研究成果

### 1) 対象者の概要

853 人(回収率 84.7%)から返信を得た。有効回答 809 名(有効回答率 80.4%)を分析対象とした。年齢は  $47.7 \pm 11.2$  歳、性別は男性 68 人(8.4%)、女性 741 人(91.6%)、職種は看護師 579 人(71.6%)、准看護師 230 人(28.4%)であった。所属施設は、療養病床 377 人(46.6%)、介護老人保健施設 192 人(23.7%)、介護老人福祉施設 240 人(29.7%)であった。

### 2) 因果モデルの検証

共分散構造分析にて、個人の資源と仕事の資源を先行因子、ワーク・エンゲイジメントを媒介因子、心身の健康と仕事のパフォーマンスをアウトカムとする因果モデルの検証を行い、全対象者においてこのモデルが検証された。多母集団の同時分析にて療養病床、介護老人保健施設、介護老人福祉施設の配置不変性を確認し配置不変が成立した。

介護老人保健施設と介護老人福祉施設の測定不変性(等値制約)について検討した。モデルの適合度を比較したところ、両群間に等値制約を課したモデルが良いと結論され、強測定不変が成立した。2乗検定によるモデル比較においても、両群の因子構造、因子負荷量、因子間の共分散に違いが無いことが明らかになった。従って、ワーク・エンゲイジメント因果モデルにおいては、介護老人保健施設と介護老人福祉施設は同じ集団とすることが妥当と判断され、これを高齢

者施設とした。

次に、療養病床と高齢者施設の測定不変性（等値制約）について検討した。モデルの適合度を比較したところ、制約の無いモデルの適合度が最も良かった。両群間の母数には制約は置かない「制約なし」のモデルが良いと結論された。従って、療養病床と高齢者施設は異なる集団とすることが妥当と判断された。

### 3) 因果プロセスの検証

これらをふまえ、ワーク・エンゲイジメントを媒介因子とする間接効果を検証し、先行因子から心身の健康への因果プロセスを確認した。療養病床では、心身の健康は、ワーク・エンゲイジメントの直接効果 0.21、仕事の負担の直接効果 0.53、仕事の資源の総合効果 0.53 の影響を受け、心身の健康が促進することが明らかとなった。仕事の資源からはワーク・エンゲイジメントの媒介効果が認められた。

高齢者施設では、ワーク・エンゲイジメントの直接効果 0.31、仕事の負担の直接効果 0.39、レジリエンス（個人の資源）の総合効果 0.24、仕事の資源の総合効果 0.44 の影響を受け、心身の健康が促進することが明らかとなった。仕事の資源とレジリエンス（個人の資源）からはワーク・エンゲイジメントの媒介効果が認められた。

同様に、先行因子から心身の健康への因果プロセスを確認した。療養病床では、仕事のパフォーマンスは、ワーク・エンゲイジメントの直接効果無し、レジリエンス（個人の資源）の直接効果 0.45、仕事の資源の直接効果 0.28 の影響を受け、心身の健康が促進することが明らかとなった。仕事の資源とレジリエンス（個人の資源）からはワーク・エンゲイジメントの媒介効果が認められなかった。

高齢者施設では、仕事のパフォーマンスは、ワーク・エンゲイジメントの直接効果 0.19、レジリエンス（個人の資源）の総合効果 0.44、仕事の資源の総合効果 0.43 の影響を受け、心身の健康が促進することが明らかとなった。仕事の資源とレジリエンス（個人の資源）からはワーク・エンゲイジメントの媒介効果が認められた。

平均構造モデルにて、先行因子であるレジリエンス（個人の資源）、仕事の資源、仕事負担の平均値を比較したところ、いずれも療養病床より高齢者施設の方が高い結果であった。

### 4) 心身の健康の促進プロセス

ストレスを抑制し心身の健康を促進するためには、療養病床においては仕事の量的負担が少ないことと、職場の作業レベル（仕事の意義、役割明確さ、成長の機会など）、部署レベル（仕事の報酬、上司のリーダーシップなど）、事業場レベル（経営層との信頼関係、人事評価の公正さ、個人の尊重など）の職場のポジティブな資源を高めることが大切になる。高齢者施設においても、同様にこれら職場のポジティブな資源の調整が仕事に対するいきいきした心理状態を喚起し、ストレスを抑制し心身の健康を促進することが示唆された。

### 5) 仕事のパフォーマンスの促進プロセス

仕事のパフォーマンスの促進には、療養病床も高齢者施設も個人の資源であるレジリエンスの影響があり、特に療養病床においては、持って生まれた気質と関連の強いレジリエンス要因が直接的に仕事のパフォーマンスに影響すると示唆された。また、高齢者施設では、部署レベル（仕事の報酬、上司のリーダーシップなど）の仕事の資源の調整が仕事に対するいきいきした心理状態を喚起し、さらに仕事のパフォーマンスが促進されると示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 木内千晶, 高山裕子	4. 巻 -
2. 論文標題 Mediating Effects of Work Engagement of Nurses Working in Long-Term Care Beds in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Worldwide Nursing Conference	6. 最初と最後の頁 84-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 木内千晶、鈴木英子、高山裕子、柴田滋子、小檜山敦子、松尾まき
2. 発表標題 療養病床の管理職・非管理職におけるワーク・エンゲイジメントプロセスモデルの検証
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木内千晶, 高山裕子, 小檜山敦子
2. 発表標題 療養病床の看護に関する研究の動向と課題
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木内千晶, 鈴木英子, 高山裕子, 高野美香, 瀬戸口ひとみ, 中澤沙織, 塩見直子
2. 発表標題 Causal Model of Work Engagement of Registered Nurses and Licensed Practical Nurses with Different Educational Backgrounds
3. 学会等名 The 17th Annual Hawaii International Conference on Education (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------